

# 第18回草加少年野球交流大会

## 大会実施要項

### ① 【競技運営に関する注意事項】

1. 大会特別規則に定められている事項は、チーム全員に周知し徹底させること。
2. 選手の登録は20名以内とし、選手登録名簿を本部に提出すること。
3. 登録名簿の提出後は、選手の追加及び変更は認めない。
4. 選手の背番号は、0番から20番までとし、主将は10番とする。
5. 登録メンバーでベンチ入りする監督が30番、コーチは29番、28番とし統一する。
6. ユニホーム(帽子も含む)は、同一・同型・同衣裳を着用する。但し、事前に合同チームで出場することが認められたチームを除く。
7. 試合中にベンチに入れる人員は、チーム代表者1名、スコアラー1名と登録された監督、コーチ、選手20名とする。なお、代表者及びスコアラーは、スポーツ行事にふさわしい服装で入ること。
8. ベンチは、組合せ番号の若い方を1塁側とする。
9. ベンチの中では、携帯マイクの使用を禁止する。但し、メガホンは監督に限り使用を認める。
10. メンバー交換(3部)は、原則として試合開始予定時間の1時間前、又は前の試合の4回終了後に行う。その際、攻守の決定を行う。
11. 前の試合が早く終了した場合、試合開始予定時間前でもグラウンド整備が完了次第、次の試合を開始する。
12. 試合開始予定時間になっても会場に来ないチームは、原則として試合を棄権したものとみなす。
13. 試合が予定時間以上延長したときは、その日行う以降の試合を別の球場で行うこともある。
14. シートノックは、第一試合のみ5分間とする。但し、大会運営の関係で行わないこともある。
15. 球場内(各会場敷地内)でのフリーバッティングを禁止する。

【競技規則特別ルールの規定(試合のベンチ入り前のバットを使用した練習について)】を参照のこと。

16. ファールボールは、自ベンチ側のものは、そのベンチ側で処理し球審に届けること。但し、バックネット前のボールは、攻撃側で処理すること。
17. 小雨の場合でも、グラウンドが使用可能な場合は試合を行う。
18. 試合は、フェアプレーを基本とし、危険なプレー及び好ましくない野次は厳禁する。
19. 選手の健康管理のため、保護者(2名以内)がダックアウト内に入ることを認める。
20. バットは、全軟連公認のJSBBマーク付きを使用すること。
21. ヘルメットは、打者及び走者の危険防止のため、全軟連公認の耳付きを使用すること。
22. 捕手は、全軟連公認マーク付きのマスク(安全帯付きスロットガード付き)、レガース、ヘルメット、及びファールカップを着用しなければならない。
23. 用具点検を試合開始に先立って審判が行う。全軟連公認ではない用具や、キズ、凹み、破損などのある用具は、使用を認めない。

### ② 【事故等の対応】

大会に参加した役員、審判、指導者、選手及び応援等の父兄等の全ての不慮・不測の事故等については、全て各個人及び各チームの責任において処理する。

### ③ 【大会特別規則】

1. 試合は7回戦とし、5回(4回1/2)を持って成立とする。
2. 試合時間は1時間30分とし、試合開始後1時間30分を経過した後は、新しい回に入らない。(時間優先)
3. 1時間30分経過後、もしくは7回終了後及び延長戦も同点の場合は、タイブレークで勝敗を決定する。(時間内延長戦は行わない。)
4. タイブレークは、以下の方法で行う。
  - (1) 継続打順、無死1,2塁とし、走者は前回の最終打者を1塁、前打者を2塁とする。
  - (2) 選手の交代は、通常の規則によって認められる交代は許される。
  - (3) タイブレークを2回行い決着がつかない場合は、抽選とする。
5. コールドゲームは、3回(2回1/2)終了時以降10点差、5回(4回1/2)終了時以降7点差とする。但し、決勝戦は除く。
6. 暗黒・降雨時は、5回(4回1/2)終了で成立とし、それ以前については特別継続試合とする。
7. 抗議の出来るものは、監督、主将、当該プレーヤーのうちの1名とする。
8. 審判員は、試合開始に先立って、登録名簿の確認及び原則として用具の点検等を行う。
9. 試合は、スピーディに行う。
  - (1) 1イニング目と投手交代時の投球練習は7球・1分以内とし、その他のイニングは3球とする。
  - (2) 打者は、速やかに打者席に入り打撃姿勢をとること。
  - (3) 次打者は、必ず次ぎ打者席に低い姿勢で入ること。
  - (4) 攻守交代は、駆け足で行う。
  - (5) 打者がみだりに打者席を外した場合は、球審はタイムをかけずに投手の投球に対し正規な判定をして「ボール」、「ストライク」を宣言する。
  - (6) 投手が捕手のサインを見るときは、必ずプレートについて見ることに。
  - (7) ボールを受けた投手は、速やかに投球板につき投球姿勢をとること。
  - (8) タイムを要求せずにダッグアウトを出ることは認めない。又みだりにタイムを要求してはならない。
  - (9) 試合に出ている選手の負傷治療が長引くような場合は、相手チームの了解のもとに臨時代走(投手と捕手を除いた前打者)を認め、試合を進行する。
10. タイムの制限
  - (1) 試合中に選手が、スパイクの紐を結び直すためのタイムは認めない。
  - (2) タイムは、1分間を限度とする。但し、審判員が認めた場合はこの限りではない。
  - (3) 守備側からのタイムで停止されたときは、その間の投手は捕手を相手に投球練習をしてはならない。
  - (4) タイムの回数は、監督、野手、攻撃側それぞれ3回とする。但し、選手交代の監督タイムはカウントしない。またタイブレークでは、1イニングに1回とする
11. グラウンド状況によりデッドラインを超えた場合は、野球規則通りの進塁ができる。
12. 打者が頭部にデッドボールを受けた時は、球審は直ちに臨時代走の措置を行う。この場合の臨時代走は、投手と捕手を除く前打者とする。
13. 投手の投球制限
  - (1) 投手の投球制限については、肘・肩の障害防止を考慮し、一人1日70球までとする。
  - (2) 投球制限は、1日2試合の場合及びタイブレークの場合でも適応する。
  - (3) 投球制限の管理はネット裏本部で実施し、それを優先する。

14. サングラスの着用は、原則として禁止する。但し、特段の事情があり着用する場合は、ネット裏の本部と相手チームの了承を得て使用すること。
15. その他、大会特別規則に定めのない事項については、全日本軟式野球規則を準用する。

④ **【競技規則特別ルールの規定(試合のベンチ入り前のバットを使用した練習について)】**

**全グラウンド共通**

球場内のフリーバッティングは認めない。軟式野球運営細則第11条(7)の通り

特別ルールとして、試合のベンチ入り前のバットを利用した練習について、試合会場毎に次の通り認める。

(1) そうか公園多目的グラウンド内・総合グラウンドグラウンド内

- ・素振り
- ・バンド練習
- ・サンドボールでの練習
- ・カラーボールでの練習
- ・羽での練習

(2) 清掃グラウンド内・各小学校校庭

- ・素振り
- ・バンド練習

(注意事項)

- ※ いずれの練習においても、決められた場所にて指導者が十分に安全に配慮すること。
- ※ そうか公園については、多目的グラウンド内(団体として利用許可を得ている場所)以外のバット・ボールを利用した練習は一切禁止。
- ※ ルールを守れない団があれば、別途ペナルティを貸す。
- ※ 練習に参加する指導者は、団登録者に限る。また服装も練習にふさわしい服装とする。